

## ■ 施策枠組

総合計画	
基本法制度 拡大生産者責任 (EPR)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>プラスチック廃棄物管理（改定）規則（詳細①）</u></li> <li>● 固形廃棄物管理規則2016</li> </ul>

## ■ 資源循環

リデュース	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>海運総局指令（詳細③）</u></li> <li>● プラスチック廃棄物の輸入禁止</li> <li>● <u>食品企業によるプラスチック削減誓約（詳細④）</u></li> </ul>
リユース リサイクル	
マイクロ ビーズ	
代替素材	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Textile Grand Challenge 2019（レジ袋の代替素材）</li> </ul>
公共調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>地球科学省、インド鉄道における使い捨てプラスチックの禁止（詳細④）</u></li> <li>● 食品安全・基準庁におけるプラスチック回収・分別事業</li> </ul>

## ■ 適正処理

廃棄物処理 体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Swatchh Bharat Mission (SBM)</li> <li>● 固形廃棄物管理規則2016</li> </ul>
流出防止	
ごみ回収	

## ■ 横断的取組

技術開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インド・プラスチック・チャレンジ“Hackathon 2021”</li> <li>● 石油化学産業及びプラスチック加工下流産業技術革新章</li> </ul>
普及啓発 官民協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 軍隊青年団(NCC)による全国沿岸清掃キャンペーン</li> <li>● プラスチック廃棄物・使い捨てプラスチックに関する意識啓発キャンペーン</li> <li>● <u>India Plastics Pact（詳細②）</u></li> </ul>
科学的知見 の蓄積	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 沿岸・海洋ごみの定量化調査</li> </ul>
国際協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>UNDPや二国間（ドイツ、日本、ノルウェー）協力事業（詳細⑤）</u></li> </ul>

# ① インド：プラスチック廃棄物管理（改定）規則2021

2011年に策定され、2016年及び2018年に改正された「プラスチック廃棄物管理規則」を改正し、2022年以降禁止される使い捨てプラスチック製品を指定している。また、プラスチック製レジ袋の厚さの段階的引き上げ、拡大生産者責任(EPR)ガイドラインの法的拘束力の発効、当該規則の実施のためのタスクフォースの設立、普及啓発活動等を定めている。

開始年・期間 2021年8月12日発効

## 対象

- **使い捨てプラスチック製品**：プラスチック製綿棒、プラスチック製の風船棒、プラスチック製旗、お菓子やアイスの棒、装飾用ポリスチレン、お皿、コップ、ガラス、カトラリー（フォーク、スプーン、ナイフ）、ストロー、トレー、お菓子の包装、招待用カード、たばこの箱、100 $\mu$ 未満のプラスチック製・PVC製バナー、マドラー

## 内容

- 対象使い捨てプラスチック製品は、2022年7月1日以降、製造・輸入・仕入れ・流通・販売・使用の禁止
- プラスチック製レジ袋は、再利用の促進を目的として2021年9月30日以降厚さを50 $\mu$ から70 $\mu$ 、2022年12月31日以降120 $\mu$ へ引き上げ。
- プラスチック製包装容器の廃棄物は、2016年規則に従いEPRを通じて環境上適正な回収・管理を行い、当改正により「EPRに関するガイドライン」は法的拘束力を持つ。
- 国及び州・連邦直轄地（Union Territory:UT）は、使い捨てプラスチック製品の廃止及び2016年規則の実施を目的としたタスクフォースを設立する。また、それらに関する包括的な行動計画を作成する。
- 普及啓発活動として、使い捨てプラスチックに関する意識啓発キャンペーン、学生向け作文コンテストの実施。

## ②インド：India Plastics Pact（インドプラスチック協定）



国内におけるプラスチックのサーキュラー・エコノミー実現に向けて、企業、政府、NGO等の連携や取組を促進している。世界自然保護基金インド（WWF India）とインド工業連盟（CII）が設立し、英国NGOのWRAPが支援している。会員とサポーターはそれぞれ21団体、11団体（2021年12月現在）。

設立年・期間	2021年9月3日設立
--------	-------------

### 目標等

- 目標①：不要で問題あるプラスチック包装・製品を特定し、デザインやイノベーションによる施策を実施
- 目標②：2030年までに、100%のプラスチック包装が再利用可能又はリサイクル可能
- 目標③：2030年までに、50%のプラスチック包装が効率的にリサイクルされる
- 目標④：2030年までに、プラスチック包装全体で平均25%のリサイクル材を使用

### 対策

- 4つの目標達成に向けた取組：主要なマイルストーンを特定したロードマップの作成（1年目に予定）、取組を推進する「協同行動グループ」(Collaborative Action Groups)の設置、会員団体による進捗状況の年次報告
- プラスチックのサーキュラー・エコノミーへ移行するための効果的な施策の推進、全国的な枠組み・戦略の作成
- 企業・政府・関係者がバリューチェーンを通じて行動に取組みための支援
- プラスチックの3R実施に向けた市民の参加促進

### ③インド：リデュース、公共調達に関する取組

対策・取組み	実施主体	対象	内容
<p>海運総局指令 No.05 of 2019</p>	<p>海運総局<sup>1</sup></p>	<p>使い捨てプラスチック製品</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2019年10月16日に施行され、インド船及びインド水域内で運行・停泊中の外国船で以下の使い捨てプラスチック製品を禁止した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 即時禁止：カトラリー・お皿・コップ、10リットル未満の飲料ボトル、ごみ袋・レジ袋、10リットル未満の洗剤容器</li> <li>➤ 2020年1月1日以降：袋、トレイ、容器、食品包装フィルム、ミルクボトル、冷凍用袋、シャンプーボトル、アイスクリーム容器、飲料用ボトル、洗剤容器、ビスケットトレイ、ホット飲料コップ、断熱された食品包装、割れ物等の緩衝材、電子レンジ用の皿、ポテトチップ袋、ボトルキャップ</li> </ul> </li> <li>● 外国船は、インド水域内では、使い捨てプラスチック製品を使用せず、施錠された場所で保管する。また、インド港湾に入港する外国船は、船上の使い捨てプラスチック製品のリスト及び保管状況を記録する。インドの港湾受入施設に、使い捨てプラスチック製品を排出することは禁止されている。</li> </ul>

1: Director General of Shipping

## ④ インド：リデュース、公共調達に関する取組

対策・取組み	実施主体	対象	内容
地球科学省における使い捨てプラスチックの禁止	地球科学省 (MoES)	使い捨てプラスチック製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地球科学省の所属機関の施設において使い捨てプラスチックを禁止（2021年12月公表）。具体的な対象製品については不明。</li> </ul>
インド鉄道における使い捨てプラスチックの禁止	鉄道省	使い捨てプラスチック製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2019年10月2日以降、以下の対策の実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 厚さ50μ以下の使い捨てプラスチックの禁止</li> <li>➢ 販売人（ベンダー）は、プラスチック製レジ袋の使用を避ける</li> <li>➢ 職員はプラスチック製品の削減・再利用・断ること、再利用可能な袋を使用する</li> <li>➢ インド鉄道ケータリング・観光会社 (IRCTC)は、拡大生産者責任(EPR)として、プラスチック製飲料ボトルの回収を実施</li> <li>➢ プラスチック製ボトル粉碎装置を迅速に提供</li> </ul> </li> </ul>
食品企業によるプラスチック削減誓約	大手食品企業22社	プラスチック製包装、プラスチック廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2019年9月24日に、22社が事業におけるプラスチック廃棄物の管理及びプラスチック・フットプリントの削減に向けて今後2年間取り組むことを宣言し、誓約に署名。</li> </ul>

# ⑤インド：国際協力に関する取組（UNDP、ドイツ）

対策・取組み	援助支給国・団体	内容
<b>NITI Aayog<sup>1</sup>- UNDP持続可能な都市 プラスチック廃棄物管理 ハンドブック</b>	国連開発計画 (UNDP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラスチック廃棄物関係者（専門家、都市自治体（ULBs）、企業、市民団体等）との協議を通じて作成</li> <li>● インドと東南アジアの都市におけるベストプラクティス、廃棄物管理モデル、資金モデルをまとめている</li> </ul>
<b>生態系における海洋ごみの 防止に向けたサーキュ ラー・エコノミー解決策</b>	ドイツ連邦環境自 然保護原子力安 全省（BMU）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インド3州を対象に、プラスチックの3Rの促進</li> <li>● 海洋ごみの定量化、流出のモニタリング、EPRの実施等に向けたデジタル技術の開発・使用に向けた規制当局の支援</li> <li>● プラスチックの3R実証事業（PETボトルデポジット制度、マテリアル回収施設等）</li> <li>● 全国的なEPR枠組みの実施に向けた関係省庁の能力向上</li> </ul>
<b>海洋環境に流入するプ ラスチックに対処する 都市</b>	ドイツ連邦環境自 然保護原子力安 全省（BMU）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国から都市までのマルチレベル・アプローチで、プラスチック廃棄物の管理及びデータ収集の向上が目的</li> <li>● 3都市におけるプラスチック廃棄物の回収・処理実証事業</li> </ul>

1: インド施策委員会（National Institution for Transforming India Commission; NITI委員会）

# ⑤ インド：国際協力に関する取組(ノルウェー、日本)

対策・取組み	援助支給国・団体	内容
<b>インド・ノルウェー海洋汚染イニシアティブ</b>	ノルウェー外務省、国連環境計画 (UNEP) が支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2018年に開始した海洋汚染及びマイクロプラスチックへの対策国際協力プログラムの下で、陸域及び海洋における活動による汚染の防止強化</li> <li>● 2021年8月10日にプラスチック廃棄物管理新戦略を公表</li> <li>● UNEPは、インド環境森林気候変動省海洋ごみ室の能力強化支援を3年間実施予定。他に実施した取り組みは以下の通り。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 国内の使い捨てプラスチックに関する規制状況調査</li> <li>➢ 海洋プラスチックごみに関する研究能力及び情報システムの現況調査</li> <li>➢ 陸域由来の海洋プラスチック汚染削減戦略の施策概要作成</li> </ul> </li> </ul>
<b>海洋ごみの削減に向けた二国間協力</b>	日本国環境省	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2018年に環境省とインド環境森林気候変動省が環境分野での協力に関する覚書を締結し、海洋プラスチックごみを含め各協力分野での取り組みを確認</li> <li>● 海洋ごみに関するデータ収集、研究及び開発、施策策定において地域間協力を実施予定</li> <li>● UNEPによる、東南アジアとインドを対象としたCounterMEASUREプログラムへ資金拠出。ガンジス川におけるプラスチック汚染の科学的知見の収集、啓蒙活動の取組強化、施策提案等を実施。</li> </ul>